

「タバコ、止めろよ、体に悪い。血を吐いただろ？」

— 悪の道から救った若者の未来に、肺癌の余命を捧げた偏屈ジイサン

映画・健康エッセイスト こもり 小 守 ケ イ

「見ろよ！親父のあの目付き。お袋の葬式なのに」。自動車の街デトロイトの教会。時折咳き込みながら参列者の前に立つ70代半ばのポーランド系米国人、ウォルトの洪面を息子2人が囁き合う。「孫の服装にキレかかっている。人のやる事は全て気に喰わんのさ」。

葬式後の自宅パーティ。兵隊上がりでフォードの元組立工の彼は、妻以外は子供や孫も寄せ付けないほど頑固で偏狭。今日も大勢の弔問客に「食べ物目当てに来た」、妻が信頼していた神父に「若造が！」、また、隣りの*モン族一家には「イエローめ！こんな所に越して来やがって！」と毒づく。

ウォルト役は、米映画の名優、かつ、「許されざる者」などで

2度アカデミー賞に輝いた名監督のC・イーストウッド。78歳当時の本作では、戦争体験から自らを閉じた老人が人生に悩む青年を支え、初めて生きる喜びを知る様を丁寧に映す。

自慢は72年型グラントリノ

葬儀の翌日、いつも通りウォルトは、昼は星条旗の下、愛車を横目に一人ベランダで犬を話相手にタバコとビール。夜は街のバーで男達と悪態を付き合う。立ち寄った神父が、戦争で抱えた気持の負担を「少し軽くしたら？」と懺悔に誘うも、彼は頑なに拒む。



©2008 MATTEN Productions GmbH & Co.KG.
Package Design&Supplementary Material Compilation
©2009 Warner Bros.Entertainment Inc.
発売元：ワーナー・ホーム・ビデオ

「誰だ！」。深夜、ガレージで物音が！銃で愛車を守るも賊は逃げた。翌日は、隣家の息子を襲って彼の庭に侵入したチンピラ達に「芝を踏むな！」

と銃を向ける。すると、隣家家族は自分達を助けてくれたと誤解しお礼の花やご馳走を日参、家でブラブラしている息子タオが「実は、奴らの命令で貴方の車を盗もうとしたが失敗してドヤされた」と告白、謝った。

身内より隣りの 連中の方が身近に…

「うちに来ない？」。誕生日の贈物に老人ホームのパンフを添えて来た長男夫婦を追い返えずと、隣家から食事会に誘われる。大勢の笑顔の中、久しぶりの温

かい手料理を楽しむも、突然、咳き込み、トイレに駆け込むと咯血！一瞬、不安がよぎるも、「大丈夫、口を噛んだだけだ」。

「車泥棒のお詫びにタオを1週間お宅で働かせて」。“断ればモン族への侮辱”と言われ、仕方なく父のいないタオに工具の使い方や屋根ふき、壁の塗装など“男の仕事”を教え、タバコを手に作業を見守る。タオは真面目に働き、彼も見直す頃、咳き込むやハンカチに鮮血が！「タバコ、止めろよ。医者に診てもらえよ」。

翌日、受診すると肺癌で、さらに余命も告げられたのか、その夜、意を決して長男に電話。しかし、哀しいかな、口から出たのは「用はない」。

*モン族：ラオス近辺の民族で、ベトナム戦争で米軍に協力したため米軍撤退後は現地に住めず、米国へ移住した。

映画「グラントリノ」

C・イーストウッド 監督&主演、2008年、米

「お前は、もう“一人前の男”だ」

「金を貯めて大学へ行け」。目標を持たせ、建築現場のバイトを紹介すると、タオは意気揚々と働き始める。しかし、相変わらず非行を誘うチンピラ達が付きまとい、ウォルトを怒らせる。「タオと縁を切れ!」。銃で彼らを威嚇するも、それは反って仇となり、深夜、タオの家は銃撃され、姉が拉致され暴行される。

「焦るな! 4時に来い!」。翌朝、報復に早るタオを抑えて、自身は散髪や懺悔で心身を清め、4時を待つ。タオが来ると、「朝鮮戦争で敵を殺した戦功の銀星章を見せるから」と騙し、地下室に閉じこめてしまう。「俺の手は汚れている。だから報復には俺一人で行く」。

その夜、一人チンピラ達の前に立ったウォルト! 胸のライターを銃のようにまさぐり、わざと

凶弾を浴び、殺される。その結果、チンピラ達は“丸腰に対する殺人”で長期収監となり、晴れてタオは将来に夢を持てる日を手に入れた。



肺がんの予防は禁煙が第一

がんによる死亡者数は増え続けており、特に肺がんは男性では1位、女性でも大腸がんに次いで2位である。最大の原因は喫煙で、男性では喫煙者の肺がんの発症率は非喫煙者の4.8倍、女性でも3.9倍に上昇する。肺がんの中でも男性では、喫煙が原因となる小細胞がんと扁平上皮がんが約6割を占める。扁平上皮がんは太い気管支に発症しやすいので、気管支へ血液を送る気管支動脈にがんが浸潤すると、容易に出血し咯血を生じる。

肺がんの発症率は、1日の喫煙本数に喫煙年数をかけた値(ブリンクマン指数)が500以上、即ち、毎日20本を25年間の喫煙で、非喫煙者の4.9倍に上がる。また、喫煙者の肺がん発症率を非喫煙者と比較すると、10年から19年の禁煙で1.8倍に低下し、20年以上禁煙を続けるとほぼ同じになる。

喫煙は本人だけでなく、周囲の人たちにも肺がんを発症させる。これを受動喫煙といい、自分自身がタバコを吸わなくても夫が喫煙している妻の肺がんの発症率は、非喫煙者の妻の1.3倍に増える。喫煙は肺がんだけでなく、喉頭がんや咽頭がん、膀胱がんなどを起こしやすいうえ、動脈硬化を引き起こし、心筋梗塞や狭心症も発症させるので、一刻も早く禁煙すべきである。

監修

公益財団法人
結核予防会 理事
総合健診推進センター長

みやざき しげる
宮崎 滋